

年度 2008・後期	曜日・校時 金曜・2校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化(比較思想) Humanity and Culture (Comparative Thought)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:菅原 潤 /Eメールアドレス:suga@nagasaki-uac.jp/研究室:環境科学部4階 409/TEL:095-819-2730 /オフィスアワー:火曜日 13:00~14:30			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字) 授業のねらい: 西洋近代思想のうちシェリングとニーチェの日本における受容の仕方に焦点を当て、二人の思想が昭和期における近代の超克と世界史的立場に与えた影響を考察する。 授業方法: 講義形式を採る。 授業到達目標: 哲学と思想の区別を認識した上で、比較思想の方法論を反省し、西洋近代思想のおおまかな展開を念頭に入れつつ、昭和思想史におけるシェリングとニーチェの受容の仕方を理解すること。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字) 授業内容(概要) 西洋思想が日本に流入したのは明治期以降のことだが、本格的な移入は我が国の高等教育の大勢が固まった大正期からである。そこでは伝統的な和漢文の素養よりも、ドイツ思想がもてはやされた。とりわけシェリングとニーチェの思想は、狭い意味での哲学のみならず、思想・文学の分野に広範な影響をおよぼし、近代の超克や世界史的立場に理論的基礎を与えた。この授業ではシェリングとニーチェの思想受容にスポットを当てて、昭和期の思想状況について考察することとする。 第1回 イントロダクション ― 比較思想とは何か ― 第2回 哲学と思想の違いについて 第3回 ニーチェ哲学の意義について 第4回 生田長江の射程 ― 大正期におけるニーチェ受容 ― 第5回 亀井勝一郎の転向論 ― 昭和期におけるニーチェ受容 ― 第6回 ドイツロマン派と日本浪漫派について 第7回 中島栄次郎の作家論 第8回 三木清をめぐる問題 第9回 松下武雄とシェリング 第10回 保田与重郎における「日本的なもの」 第11回 ニヒリズムの自覚と中世への回帰 ― 唐木順三・西谷啓治を中心に ― 第12回 京都学派をめぐる問題(1) ― 田辺元による西田哲学批判 ― 第13回 京都学派をめぐる問題(2) ― 世界史的立場の現代的意義 ― 第14回 近代の超克と世界史的立場 第15回 戦後における比較思想のポテンシャル			
キーワード	哲学、思想、ロマン派、ニーチェ、シェリング、京都学派		
教科書・教材・参考書	菅原 潤『昭和思想史とシェリング―哲学と文学の間―』(萌書房)		
成績評価の方法・基準等	レポートによる評価(100%)		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	西洋思想と日本思想の比較の仕方を身につけること		
備考(準備学習等)	特になし		